

学校読書活動の取組【相楽東部広域連合立南山城小学校】

1 目標・基本方針等

(1) 学校教育目標

「たくましい体と豊かな心を持ち、意欲的に学ぶ児童の育成」
～ ふるさとを愛し 自分を大切に ひとを大切に ～

(2) 研究主題

思いや考えを伝え、ともに学びを深めていく児童の育成
～質の高い言語活動を通して、「話す・聞く力」を高める国語科学習～

(3) 子どもの読書活動推進目標

主体的に読書をすることにより、感性を磨き、表現力を高め、想像力豊かな児童を育成する。

ア 児童の健やかな成長に資するため、自主的に読書活動を行うことができるよう校内環境整備を図る。

イ 児童の実態を的確に把握し、発達段階に応じた図書の提供と指導を心掛け、積極的に読書する態度を養う。

ウ 児童一人一人が必要に応じて図書を有効活用し、主体的に学習する態度を養う。

(4) 基本方針

ア 「京都府子どもの読書活動推進計画（第四次推進計画）」及び「読書大好き！アクションプラン」を踏まえ、本に親しませ、児童の読書の企画を増やす取組の推進

イ 読書環境の整備・充実

ウ 本を読むこと、調べること、表現することを通じた児童の言葉の力の育成

エ 学校・家庭・地域等の連携・協力



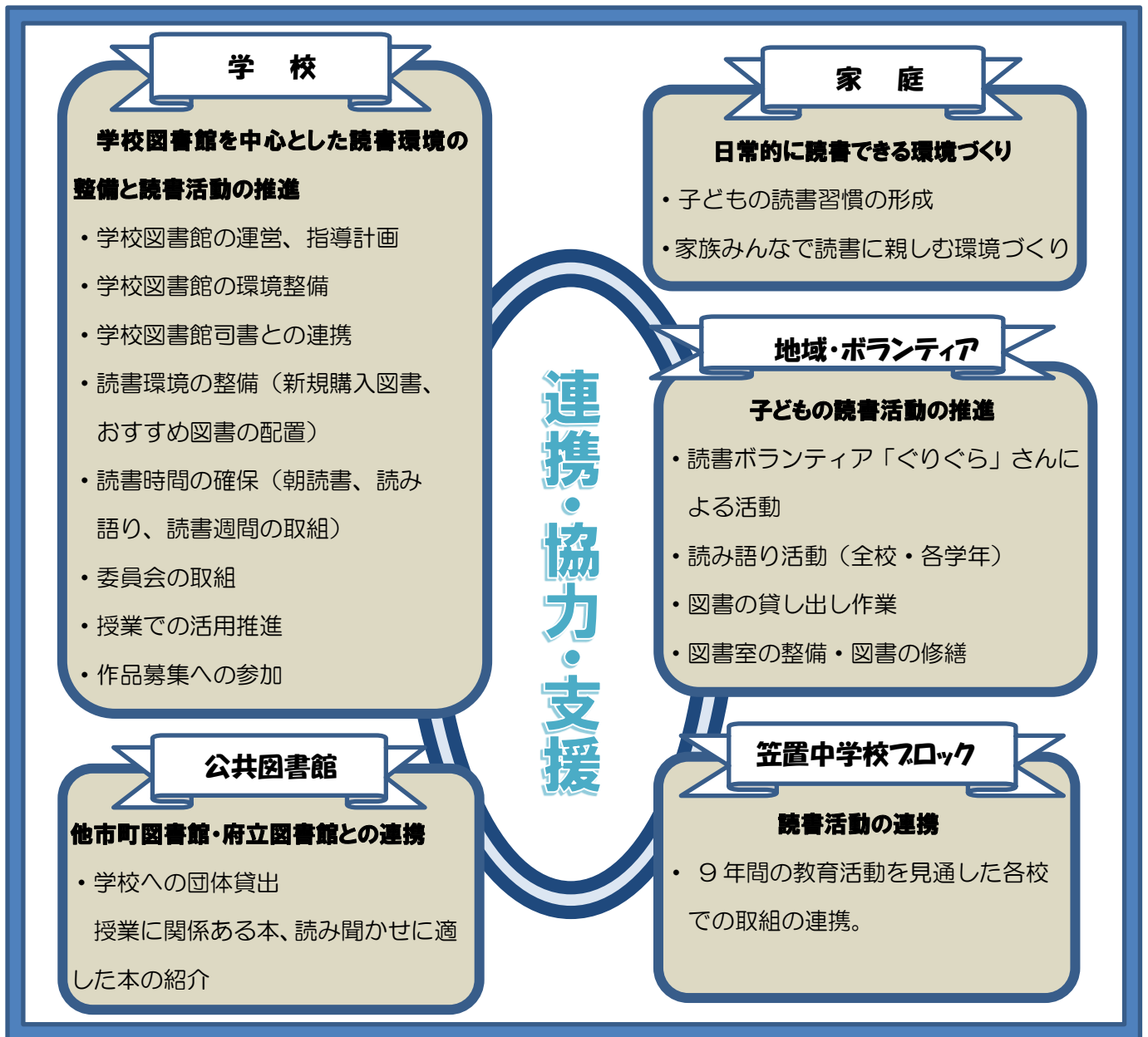
2 学校の概況

本校がある南山城村は、京都府唯一の村で、人口 2,559 名（R4.1.31 現在）、京都府の南東部に位置し、三重県、奈良県、滋賀県に隣接している。主産業はお茶と椎茸栽培である。本校は、平成 15 年 4 月に大河原小学校と田山小学校と高尾小学校が統合し、開校した。また、平成 18 年 4 月には野殿童仙房小学校と統合した村内唯一の小学校である。

令和 3 年度の在籍児童数は、58 名、学級数は 8 学級（特別支援学級 2 学級）の小規模校である。令和元年度より相楽東部広域連合教育委員会研究指定校として、国語科における「話すこと・聞くこと」領域の研究実践を進めてきた。質の高い言語活動を設定した授業改善、ことばの力を高める環境整備、豊富な読書活動を通して、研究主題にあげためざす児童の育成に取り組んでいる。

3 実践内容

(1) 読書活動推進体制



(2) 定期的に行っている取組

- ア おはよう読書（全校朝読書）毎日 8:30～8:40
- イ マイブックかばんに常時、読書用図書を準備
- ウ 図書館司書による選書（先行読書、並行読書、調べ学習など授業での活用）
- エ 地域読書ボランティア（「ぐりぐら」さん）による読み語り
 - ・週2回朝読書（2学年ずつ）と学期に3回授業時間（低・中・高学年ブロックごと）など
- オ 図書館司書による読み語り、ブックトーク、放送読書、関連図書の配架
- カ 公共図書館との連携（団体貸出の積極的活用）



毎朝10分のおはよう読書



指導のねらいにそった並行読書・関連読書



ブックウォーク宣言認定書授与

(3) イベント的に行われている取組

ア 読書週間（4月・10月）

- ・担任外、読書ボランティア（ぐりぐら）による読み語り
- ・高学年から低学年への読み語り
- ・私のおすすめ本の紹介（上級生から下級生への紹介・掲示）
- ・チャレンジ読書

イ 図書委員会の取組

- ・音読劇、ペープサート、読み語り、来い来い大作戦（読書スタンプラリー）
- ・図書クイズラリー、「読みたい本」リクエスト、新着図書の紹介、読書記録

ウ 作品募集への積極的参加

- ・読書感想文コンクール、本の帯・本のしおりコンテスト、PTA三行詩 など

エ 家庭との連携（子どもの読書習慣の形成、家族で読書に親しむ環境づくり）

- ・長期休業中の特別貸出
- ・親子読書の取組（やましろファミリー月間）



図書ボランティアの読み語り



担任外教師の読み聞かせ



高学年から低学年へ読み聞かせ



読書スタンプラリー



図書委員会の図書室来い来い作戦



子供の読書活動優秀実践校 文部科学大臣表彰

4 成果と課題

(1) 成果

- ア 本校の重点研究に「読書活動の推進」を位置付け、図書館教育部と連携し、国語科において付
きたい力・ことばの力を支える取組を組織的に進めることができた。
- イ 図書委員会が主体となって様々な取組を企画・運営することで、進んで図書室を活用する児童
が増えた。
- ウ 図書館司書との連携により、各教科等の学習の指導のねらいに迫る先行読書や並行読書を進
めることができた。少人数なので一人一冊は読む本があり、熟読できた。
- エ 読書ボランティアの読み語りや図書館司書の取組により、本好きな児童が増えてきた。
- オ 学校、家庭、地域が連携・協力した読書活動を推進することができた。
- カ 京都府教育委員会や京都府PTA協議会など、読書活動推進やことばの力の育成に関わる
様々な作品募集に積極的に挑戦することができた。

(2) 課題

- ア 読み聞かせなどの取組により本を聞くことは好きな児童が多いが、自ら読む本は自分より下
の学年対象の易しい本を選ぶことが多く、読書の幅が広がる取組を考える必要がある。
- イ G I G Aスクール構想と一体的に進め、情報発信や集約の機能を発揮する学校図書館の改革
を進める。